

木の 樹の生命

会報 2013 年（平成 25 年）6 月 1 日発行 第 11 号

NPO 法人樹の生命を守る会（緑の技術集団）



（いすみ市 日月神社のホルトノキ：写真提供 樹木医 石橋 亨）

- 樹勢回復事例 清澄寺の大杉・小見川城址のサクラ
- 事業活動報告 巨樹・古木フォーラム in かとり
10 周年記念樹木診断 など

■寄稿

一般社団法人日本樹木医会千葉県支部 ブロック活動報告

■シリーズ

樹木の増殖 接木Ⅶ
近刊本の紹介
上海便り

■今号のトピックフォト

●第7回 巨樹・古木フォーラム in かつり (本文P.3~)



パネル展示 絵鳩様所有 戦前の府馬の大クスの写真と絵葉書



パネル展示 樹木医の仕事・千葉の巨樹



パネルディスカッション

●2012年 海外研修 ベトナム~カンボジア



カンボジア：タ・プローム遺跡に絡まる巨大な樹木(SPUNG)の根の前で集合写真



フタバガキの種子

●理事長挨拶 地域と協働の樹木医活動 理事長 有田和實	1
■事業活動報告	
第7回 巨樹・古木フォーラム in かつり (山崎雅則)	3
診断事例 清澄寺大スギ-II スギカミキリ実態調査 (有田和實)	5
子ども樹木博士 君津・稲毛で開催 (諏訪原幸広)	8
診断事例 小見川城址サクラ樹勢回復について (有田和實)	9
NPO 創立 10 周年記念無料簡易診断事業 (第 2 期) 実施概要 (松原功)	11
平成 24 年 NPO 法人樹の生命を守る会 秋季研修旅行報告 (佐々木潔州)	13
海外研修旅行実施報告 (石橋亨)	15
■寄稿	
一般社団法人日本樹木医会千葉県支部について (鈴木弘行)	17
■事業活動報告	
稲毛海浜公園樹林ボランティア指導について (石橋亨)	19
■シリーズ	
樹木の増殖 接木Ⅶ (田口峯男)	20
上海便り (その 1) 上海ディズニー (伊東伴尾)	21
近刊本の紹介 (富塚武邦)	23
■事業活動報告および委員会便り	
NPO 法人 樹の生命を守る会 総会報告 (総務委員会)	24
総務委員会報告	25
企画・事業委員会報告	25
技術委員会報告	26
広報委員会報告	26
事務局報告	26
■会員名簿	27

■表紙写真：日月神社のホルトノキ（いすみ市）

日月神社のホルトノキは樹高 20m、幹周り約 3.2m の巨樹であり、根が板状に発達（板根と呼ばれる）しています。

「NPO 法人樹の生命を守る会」創立 10 周年記念無料簡易診断事業において、いすみ市よりご依頼を受けたことから、当会にて樹木簡易診断を実施しました。

（本誌 p.12 に関連写真を掲載）

写真撮影者より、「この樹に出会っての感想は、なんとも言えぬ素晴らしい樹に出会えた。お蔭様でありがとうございます。」

（撮影 山武市在住樹木医 石橋 亨）

理事長挨拶 地域と協働の樹木医活動



「NPO 法人樹の生命を守る会」が、誕生してから 12 年を迎える事が出来ました。ここに会報「樹の生命」第 11 号を発行できますことを、会員とともに感謝いたします。

この 1 2 年間、千葉県に根を張り、幹を造り、枝を伸ばし、一枚一枚葉を広げ、花を咲かせ、年輪を重ねる樹木のように、多くの関係機関との連携のもと活動を行ってまいりました。千葉県と協働で県内の巨樹・古木 350 本の樹勢調査を行い、この資料を基に県内「ちばの巨樹・古木ガイドマップ」の作成や、ホームページ「ちばの巨木・古木ものがたり」を開設しました。また、県民と共に、毎年「子ども樹木博士」「巨樹・古木フォーラム」を開催し、千葉のみどりを守り、育て、増やしてまいりました。

平成 24 年度は、NPO 創立 10 周年記念事業として、県内市町村からの推薦を受けた樹木の簡易診断第 II 回を昨年に続き行い、今後の樹木管理への提言をしました。また、千葉市稲毛海浜公園で、地域の皆さんや公園管理事務所職員と協働で、樹林管理ボランティア指導や樹木勉強会を行い、樹木医的立場で、地域に根差した技術協力や、初めて稲毛海浜公園で「子ども樹木博士」を開催しました。さらに、県内での活動実績を、樹木医学会等で技術実績事例として発表してきました。

1. 平成 24 年度 活動内容

役員会を、毎月第 3 金曜日夕方から、千葉市コミュニティセンターで開催。

理事長 有田和實（浦安市在住）

- 1) 平成 24 年 4 月 20 日（金）
千葉県さくらの年次総会（茨城県結城市）・さくら研修視察「日本花の会 結城農場」（茨城県結城市）に参加。
- 2) 平成 24 年 5 月 19 日（土）
平成 24 年度 通常総会を「プラザ菜の花」で開催。今年度活動方針を決定。
- 3) 平成 24 年 6 月 1 日（金）
会誌「樹の生命」第 10 号を発行。6 月 8 日日本樹木医会福岡大会で参加者に配布。
- 4) 平成 24 年 6 月 16 日（土）～20 日（水）
海外技術研修旅行を行った。会員 11 名の参加を得て、ヴェトナム・ホーチミンシティで熱帯巨樹や街路樹の研修、カンボジア・アンコールワット周辺遺跡の巨樹と遺跡保全について研修意見交換会を行った。
- 5) 平成 24 年 4 月 18 日（水）
稲毛海浜公園での市民活動指導を開始。その後、毎月第三金曜日の午後に市民と協働作業を行った。
- 6) 平成 24 年 7 月 29 日（日）
第二回「市町村が推薦する巨樹古木樹勢簡易診断」の診断方法や報告書作成について、千葉県立青葉の森公園にて研修会を開催。
- 7) 平成 24 年 8 月 5 日（日）
千葉県森林インストラクター会と共催で「子ども樹木博士」を、君津市久留里城周辺林地で行った。
- 8) 平成 24 年 9 月 22 日（土）
NPO 創立 10 周年記念事業・第二回「市町村が推薦する巨樹・古木樹勢簡易診断」を開始し、11 月には各市町村に診断書を提出。
- 9) 平成 24 年 10 月 14 日（日）

日本樹木医会千葉県支部、千葉県森林インストラクター会と共催で「子ども樹木博士」を、稲毛海浜公園で開催。

1 0) 平成 24 年 11 月 3 日 (土)

山田ふれあいまつり(香取市)に、今年も参加し、会の PR と草灰の配布を行った。

1 1) 平成 24 年 11 月 4 日 (日) ~5 日 (月)

会員研修旅行を、埼玉県樹木医会支部長深澤・野村樹木医の協力を得て開催。東京大学秩父演習林を会員の相川樹木医の案内で錦秋の樹木視察研修を行った。

1 2) 平成 25 年 2 月 10 日(日)

木下小学校(印西市)のフジ樹勢診断・土壌診断の研修を行った。

1 3) 平成 25 年 2 月 24 日 (日)

「第七回巨樹・古木フォーラム in かとり」を、香取市山田公民館で開催。

① 基調講演—松原 功

(NPO 法人 樹の生命を守る会 副理事長)

② 4 件の事例発表

③ パネルディスカッション

④ 現地研修(府馬の大クス)

⑤ 千葉県の巨樹古木パネル展示

1 4) 平成 25 年 3 月 5 日 (火)

千葉県サクラの会理事会に出席。

2. 受託事業

受託事業としては、千葉市・習志野市、浦安市、香取市、成田市、富里市、印西市、大総小学校、清澄寺、県まちづくり公社、千葉さくらの会等から 19 件の樹勢診断・樹勢回復作業を受託した。

上記事業や研修を、会員、各委員が協力して遂行し、会員の技術向上を図るとともに、子ども達に少しでも樹木・自然に親んでもらい、県内緑化、みどりの育成、推進に役立てる事が出来た。

<まとめ>

NPO 法人活動も 1 2 年目に入り、千葉県、県内市町村、日本樹木医会千葉県支部、千葉県緑化推進機構、千葉県さくらの会、千葉県森林インストラクター会等諸団体、関係各位のご協力を得て、社会に貢献できる団体として、樹木が年々生長するように、当会も生長してまいりました。樹木医の知識と経験を生かし、地球温暖化阻止に少しでもお手伝いできるよう努力いたす所存でございます。今後も宜しくご指導をお願い致します。

3. 平成 25 年度活動方針

地域の樹木医として、巨樹・古木を守り、樹木の育成の手助けを致します。また、都市樹木、特に街路樹、公園樹等が植栽されてから年月を経て、倒木や枝折れ等の危険木が目立つようになってきました。このような樹木について、地域の関係機関等と協働して、樹木の健康診断を行い、安全で安心できる都市緑化へのお手伝いをいたします。

① 「巨樹・古木ふれあい環境調査」調査対象木 350 本の観察・管理への助言の実施。

② ホームページなど広報活動の充実。

③ 子ども樹木博士、研修会等、緑の普及・啓発に関する社会的貢献事業を積極的に推進。

④ 千葉市公園緑地課と協働で、稲毛海浜公園の樹林管理ボランティア指導を継続。第二回いなげ子ども樹木博士の開催。

⑤ 会員樹木医の技術や知識向上のため、研修会、技術発表会等を開催。

⑥ 会の技術的実績を学会等公的機会に発表。

これらの活動推進は、私ども会員の更なる技術向上を図るとともに、県市町村をはじめ、みどりと環境の保全に携わる方々のご理解とご支援なしには出来ません。今後ともよろしく御指導を賜りますようお願い申し上げます。

第7回「巨樹・古木フォーラム in かつり—国天・府馬の大クスを事例に—」 ～ 原点に返れ ～開催までの経緯

実行委員長 山崎雅則（習志野市在住）



（図1. 宣伝ポスター）

1. はじめに

上記タイトルからおわりの通りこれまで6回のフォーラムを開催してきた。第1回フォーラムは平成18年1月21日に大雪の天候の中、千葉市動物公園にて大盛況の内に開催された。とても感動的かつ印象的なスタートと言えた。

以後、第2回：平成19年2月に習志野市消防庁舎、第3回：平成19年10月に船橋市アンデルセン公園、第4回：平成21年2月に市川市、第5回：平成22年8月に君津市、そして第6回：平成24年1月に我孫子市で開催された。

いずれも、集客数100～200人と大成功と言える結果であった。

2. 今年はこれまでと違うスタート！？

以上のように過去6回のフォーラムは盛況のうちに終わることができたが、一方では、規模を拡大する傾向により諸問題が持ち上がって来るようになった。

会場をいかに押さえるか、講師・講演者をいかに選考・依頼するか、主催者・共催者・後援者の調整、そして予算等々。

一つのイベントを開催するためにはそれなりの仕事が発生するわけだが、組織的な行動があまりされていなかった。そのためにかかなりの個人的負担があったことは否めない。

こういった現状から、平成24年度NPO事業計画において巨樹・古木フォーラムを基本的に見直す旨の方針が打ち出された。

すなわち、開催するか否かという根本的な問題を含めた再検討をすべく、委員会を設けるというものであった。

これを受けて巨樹・古木フォーラム検討委員会（メンバーはNPO理事および企画・事業委員会委員で構成）を平成24年6月15日に発足させた（第1回検討委員会）。

3. 原点に返れ

以降、検討委員会は3回召集され、結論から言うとフォーラムは継続開催ということになった。

検討委員会で出た意見を以下に列記する。

- ・地域密着・地元中心型でよい。手作り(小規模)。例えば、会場は公民館や集会所など。
- ・財政難。金をかけないで実施したい。

- ・継続が大切、開催する事に意義がある。
- ・あまり構えず肩肘張らないでやるべきだ。
- ・講師はわざわざ呼ばなくてもいいのではないか。呼んでも呼ばなくても良い。呼ぼうとするから、色々大変な事になる。
- ・当初（第2回まで）は県より金が出た。それで勢いがつきすぎたかも。
- ・個人負担が大きかった。
- ・原点にもどれ。そもそも樹木医の存在・役割・仕事等の啓蒙普及活動、地位向上を目指す事などがフォーラム開催の目的であった。各地域の樹木医が努力すべき。

このように結論は、小規模でもよいから肩肘張らずに、地元（地域）中心でやろうということ。また、樹木医の啓蒙普及活動が目的であるという、初心を忘れないようにしようという事であった。

4. 実行委員会立ち上げ～フォーラム開催

以上のような経緯からフォーラム開催候補地として、府馬の大クスを擁する旧山田町（現香取市）が適地という事になり、時期は平成25年2月などが決められて検討委員会の役割は終わった。

以後理事会の承認を得て、実行委員会へと仕事は引き継がれフォーラム開催へ至る。

実行委員会はフォーラム開催まで6回、開催後1回の計7回召集され、その任務を終えた。

5. フォーラム内容および関係者

・巨樹古木フォーラム実行委員会
委員長：山崎雅則、副委員長：有田和實、大木一男、石橋 亨、伊藤道男（千葉県緑化推進委員会常務理事）、監事：富塚武邦、

大木幹夫、会計担当：大場みちる、広報担当：諏訪原幸広、相談役：高野光利、松原功。

・フォーラム出演者

司会：久本洋子（東大千葉演習林）、コーディネーター：富塚武邦、パネラー：松原 功（基調講演・地域における巨樹・古木の保全について）、繪鳩(えぼと)昌之氏（香取市文化財保護審議会委員・文化財としての府馬の大クスについて）、高野光利（国天・府馬の大クス保全事例）、鈴木一夫氏（元府馬の大クス保存対策委員・府馬の大クスと地域住民のふれあい）、有田和實（小見川城山公園サクラ復活について）。

・開会式挨拶：香取市長代理・八木副市長。

・府馬の大クス現地説明会：高野光利、真嶋好博、神尾健二。

・協力スタッフ：小池英憲、木暮亘男、中村元英、佐々木潔州、北田征二、石谷栄次、櫻本史夫、柏崎智和、林 正純、渡辺照夫、梅本清作、山田雄介、鏑木大作、鳥屋英昭。



(図2. フォーラム風景)

6. 終わりに

今回は以前までとは異なり人口低密度地域でのフォーラム開催の周知徹底と集客戦略等の再考に迫られ、非常に勉強になった。関係各位への感謝敬意を表して報告とする。

診断事例 清澄寺大スギⅡ スギカミキリ実態調査

樹木医 有田和實（浦安市在住）



(写真1. 吹雪の中 捕獲テープ設置状況)

昨年度に続き、「国天・清澄寺大スギ樹勢調査-スギカミキリ実態調査-」を行った。

平成23年度は、各種診断機器を活用して、樹体内腐朽空洞状況調査を行ってきたところであるが、今年度は清澄寺・鴨川市文化財課・県文化財課の要請を受けて、スギカミキリの被害状況の調査を会員の協力を得て行った。

平成2月26日（火）温暖な房総半島では珍しい大雪の中で捕獲テープの設置作業を行った。地上2mから、3段に捕獲テープ(写真-1カミキリホイホイ)を設置し、3月末、4月末、5月末、の3回に分けてスギカミキリの脱出状況を調査することを目的に行った。

思いもよらぬ大雪の中で、会員(松原・山崎・石橋・有田)総掛りで2時間近くを掛けての設置を行った。当日の天気予報では、午後から天気が回復するとのことであったが、一向に天気が好転せず、益々吹雪が激しくなってきた。これ以上の積雪が進めば、ノーマルタイヤでの下山は不可能となると判断し、吹雪の中での設置を強行した。



(写真2. 猛吹雪の中の大スギ)

テープ設置前に、過去にスギカミキリの千葉県全域を調査発表した松原会員により、スギカミキリの生態や被害状況を詳しく説明され、テープ設置位置や設置方法について協議を行い、作業に齟齬が生じないように計画を立てて作業に入った。作業終盤に、清澄寺に隣接する東京大学千葉演習林山田利博林長が駆けつけ、作業を見守ってくれた。

日没に近づいた時刻に作業を完了し、お山を下山することにしたが、下山道路は車両の運行が少なく轍の跡が見えないほどの積雪が20cm近くもあり、慎重に運転し出来る限りブレーキを使用せずローギアのみで無事下山することができた。命を掛けた下山は、海岸線へ迂回しての帰路となった。千葉市内に帰ると雪は消え穏やかな夕闇であった。



(写真 3. 設置完了時記念撮影 左から山田東大千葉演習林長・山崎・松原・石橋樹木医)



(写真 5. テープ剥し状況)

テープ設置から1ヶ月後の、平成25年3月26日、一段目のテープ剥離調査を行った。一か月前の大雪がうその様な暖かさで、房総半島は春真っ盛りで、菜の花が咲き、梅・桃・櫻が同時に咲き誇っていた。

鴨川市文化財課の職員を交え、テープを剥す前に研修を行い、何がキャチされているかを事前に学習した。

今回の調査で捕獲された生物は、スギカミキリ14、クモ4、コオロギ4、ヨコズナサシガメ1、トカゲ1、ダンゴムシ1であった。テープ10m×80mmに14頭のスギカミキリが脱出していた。

対照隣接小スギ(C=218 cm)には、スギカミキリ1、クモ1、コオロギ1、ヨコズナサシガメ1、ムカデ1頭が捕獲されていた。



(写真 4. 事前学習会 松原会員の説明)



(写真 6. キャッチされたスギカミキリ、右大きいほうが雌、左が雄)

調査結果から、スギカミキリは 16 頭/m² が生息していたと推測できた。これらは平均的な生息量と判断された。今後、4月末と5月末に残ったテープで調査を続ける。

スギカミキリ生息調査は、通常3ヶ年を通しての捕獲結果から生息判定を行い、防除方針を計画する。このことから向こう2ヶ年の調査を続行する予定である。調査結果は、次号を待たれたい。



(写真8. トカゲ)



(写真7. ムカデ)



(写真9. コオロギ)

(表1. 清澄寺スギカミキリ調査第一回)

	番号	テープ長 (cm)	捕獲生物名及び数量						
			スギカミキリ	クモ	コオロギ	ヨスナサシガメ	トカゲ	ダンゴムシ	ムカデ
大 杉	1	90	0						
	2	80	3						
	3	130	3						
	4	110	0						
	5	95	3	1					
	6	118	1						
	7	120	0	1					
	8	80	1		1				
	9	115	0	1		1	1		
	10	115	0	1					
	11	128	0						
	12	135	2					1	
	13	135	1		1				
集計		1,451	14	4	1	1	1	1	

は、既治療範囲

小杉	1	218	1	4	1	1		1	1
----	---	-----	---	---	---	---	--	---	---

事業報告 子ども樹木博士 君津・稲毛で開催

樹木医 諏訪原幸広（君津市在住）



(写真1. 子ども樹木博士 in 稲毛の様子)

平成24年は「子ども樹木博士」を8月に君津市森林体験センター、10月に千葉市稲毛海浜公園で開催いたしました。

子ども樹木博士は小学生を対象に、フィールドで引率者から樹木の説明を受けた後、樹木の葉が並べられた試験会場で葉の名前を識別し、正答数で段位認定書を発行するものです。単に正答数を競うものではなく、樹木や自然に親める様、引率者が分かりやすく、面白く、工夫を凝らしながら説明してゆくのが特徴です。

両会場とも、子供たちが熱心に説明を受ける姿や、試験会場で葉と睨めっこしながら答案を作成する真剣な姿が印象的でした。

試験の後は、草笛のBGMが流れる中、認定

書が実行委員長から一人一人に手渡され、草笛の体験やドングリなどを使ったクラフトを楽しみました。子ども樹木博士は子供会、学校単位などでも開催可能です。開催を希望される方は事務局までご連絡ください。

● 開催概要

主催：日本樹木医会千葉県支部・千葉県森林インストラクター会・NPO法人樹の生命を守る会

後援：林野庁千葉森林管理事務所（君津会場）

1) 君津会場 平成24年8月5日開催

参加者：12名

2) 稲毛会場 平成24年10月14日開催

参加者：20名

診断事例 小見川城址公園 サクラ樹勢回復について

理事長 有田和實（浦安市在住）

1. 千葉県巨樹古木調査と香取市の樹木調査

平成14年5月「特定非営利活動法人 樹の命を守る会」を千葉県知事に申請し、平成14年8月に堂本暁子千葉県知事より法人認定を受けた。法人認定を受けてから千葉県や 県内市町村等行政に樹木医の活動内容を説明し、事業活動を開始した。その結果、千葉県森林課からの要請で「平成15年度緊急地域雇用創出特別基金事業・巨樹・古木ふれあい環境調査整備事業」の委託を受けた。学識経験者を中心の委員会を設け、各市町村の推薦を受けた200本について樹勢調査を行った（写真1、2）。



（写真1. 平成15年度調査時開花標準樹）



（写真2. 平成20年開花状況）

平成16年度には、平成15年度調査結果に

基づき、委員会を経て74本の簡易治療を行った。また、平成17年度には調査内容も含め、県民へのお知らせとして、巨樹・古木の解説やアクセス方法等を明記した地図を、県内4分割した地図にまとめ、千葉県森林課より発行した。このうち香取市（調査時は小見川町）からは、城山公園のソメイヨシノと小見川中央小学校のタブノキの調査依頼を受け調査を行った。今回は城山公園のソメイヨシノの事例を紹介する。

2. 小見川城山公園の桜診断治療

1) 樹勢不良原因調査

小見川城山公園のソメイヨシノは、県内でも有名なお花見処であったが、ここ数年花着きが悪くなり、町民から樹勢回復と満開の花を期待する声が大きくなり、町から具体的な治療等について調査依頼があった。

15年度は、花着きが悪くなった原因について調査を行った結果、殆どのソメイヨシノはテング巢病に侵されて、異様な樹形であった。また、多くの樹幹が傷害を受け腐朽空洞化していた。樹勢衰退のもう一方の原因には、多くの花見客に土壌が踏み固められ、根系部分からの養水分供給困難状況で梢端枯が目立っていた。

2) 治療

このような調査結果を踏まえ、樹勢回復・開花促進の方策を提案し16年度の樹勢回復簡易治療を行った。

ア. 剪定と施肥

テング巢罹病枝の剪定と、思い切った枯枝の剪定を行った。思い切った剪定により若干の樹形不具合を生じた樹木には緩効性肥料を施し、早期樹勢回復を図った。

イ. 根系活性化治療

根系活性化治療は、県内で猛威をふるって

いる孟宗竹を用いての空気管（空気筒）を設置した。施工は孔開き孟宗竹(L=50 cm)に粃殻と細かく砕いた木炭を混入し、若干（4～5粒）の緩効性肥料を投入した。樹体にもよるが平均20ヶ所程度埋設した（写真3、4）。



（写真3. 城山頂上付近茶室前樹木根系治療-孟宗竹+粃殻+木炭-空気筒埋設）



（写真4. 根系活性化治療材料）

ウ. 樹幹損傷腐朽空洞部の治療

腐朽部を丁寧に切削し、殺菌癒合剤塗布を行った。開口空洞部は、敢えて閉鎖せず開口のまま腐朽を止めることのみに留意した。折損防止のための支柱を設けて安全対策を行った（写真5）。

エ. 治療後

治療後、徐々に樹勢は回復し、2～3年目から往時を彷彿させる開花が見られ、花見も

復活してきた。

テング巣罹病枝剪定は、工区を5つに分け、毎年剪定を行い二巡目に入り、益々花数が増してきている（写真6）。また、補植計画が進み今後が楽しみである。



（写真5. 茶室横・樹幹治療状況）



（写真6. 茶室前・治療後3年目の開花状況）

NPO 創立 10 周年記念無料簡易診断事業（第 2 期）実施概要

副理事長・総務委員長 松原 功（山武市在住）

1. はじめに

「NPO 法人樹の生命を守る会」は、創立 10 周年を迎えるにあたり、記念行事の一つとして、市町村の推薦する公共施設等の樹木の簡易健康診断を実施し、関係市町村への情報提供を行うとともに、併せて市町村において樹勢回復事業の希望があればご協力することを目的に、標記の事業を実施した。今回、平成 24 年度に実施した第 2 期分の実施結果がまとまったのでその概要を報告する。

2. 実施概要

実施時期 平成 24 年 6 月～10 月

実施場所 県東部・県中央部 14 か所

3. 実施地域の区割りと班編成

表-1 の合計 26 市町村から 12 市町を抽選で選んで、原則各市町 1 本、12 名の会員の協力により樹木簡易診断票を使用して簡易診断を実施した。

4. 事業実施の方法と実施経過

あらかじめ、理事会の承認を得て、事業実施要綱を定め、実施委員会を立ち上げて下記の日程で、事業を実施した。

6 月 18 日～6 月 30 日

調査員の募集

7 月 20 日（金）

第 1 回事業実施委員会

事業計画の承認、調査員の決定。

7 月 29 日（日）

調査員会議・樹木簡易診断研修（青葉の森公園）

8 月 17 日（金）

第 2 回事業実施委員会：

調査員の勧誘状況・市町村の応募状況

の報告。（調査員は、8 月 20 日までに市町村訪問・応募勧誘を完了した。）

9 月 10 日（土）

市町村応募締め切り

9 月 16 日（金）

第 3 回事業実施委員会

応募状況の報告及び実施市町村を決定した（表 2）。該当の市町村を担当する調査員は、市町村等と連絡を取り、診断事業を実施。10 月 10 日までに完了し、報告書を事務局に送付した。

10 月 19 日（金）

第 4 回事業実施委員会

報告書の承認。該当の市町村を担当する調査員は、10 月 31 日までに市町村に報告を行い、樹勢回復事業の勧誘を推進。

11 月 16 日（金）

第 5 回事業実施委員会

事業終了の確認。

5. むすび

本事業では、予算と担当人員の関係から、当初、26 市町村のうち 10 市町を選抜し、しかも、原則各 1 本というきつい条件で始まったが、今回も 12 市町から応募をいただき（応募率 46%）、樹木の健康への関心がかなり高いということが分かったので、原則各 1 本（千葉市は原則各区 1 本）は変えず、12 市町すべてで実施することとした。また、現在までに、樹勢回復及び関連の相談も複数の市町から寄せられている。本事業は、今回で終了するが、市町村の要望もあるので、機会があれば、再び実施したいと考えている。会員皆様のご協力に感謝します。

(表1. 実施地域の区割りと班編成)

班	市町村	担当地区	班長	班員
第1班	1	千葉市(6区)	中村	木暮
第2班	5	神崎町、香取市、東庄町、銚子市、旭市	有田	大木(一)
第3班	5	多古町、芝山町、匝瑳市、横芝光町、山武市	石橋	大木(幹)
第4班	5	東金市、九十九里町、大網白里町(当時) 茂原市、白子町	富塚	足立
第5班	5	長南町、睦沢町、長生村、一宮町、いすみ市	松原	海老根
第6班	5	市原市、長柄町、大多喜町、勝浦市、御宿町	小池	渡邊
敬称略				

(表2. 選抜市町とご依頼のあった樹木)

班	受付日	市町村	樹種・名称	樹高 m	幹回り cm	所有者	所在場所	指定文化財等
1	9月3日	千葉市	①テーダマツ(6本)	平均 15	255	千葉市	稲岸公園	記念樹
	9月3日	千葉市	②タブノキ	16	572	園生神社	境内	保護樹木
2	8月7日	旭市	③タブノキ	6	300	倉橋区	境内	指定文化財
	8月20日	銚子市	④ケヤキ	8	120	銚子市	道路	景観重要木
	8月31日	香取市	⑤クスノキ	20	—	香取市	佐原公園	その他
3	8月21日	山武市	⑥プラタナス	25	400	山武市	豊岡小学校	記念樹
	9月5日	芝山町	⑦ナギ	15	80	熊野神社	境内	指定文化財
4	8月21日	茂原市	⑧ソメイヨシノ	4	100	茂原市	茂原公園	景観重要木
	9月4日	東金市	⑨マキノキ	14	215	東金市	文化会館敷地 (佐原市から)	記念樹
5	8月13日	いすみ市	⑩ホルトノキ	20	3.2	日月神社	境内	指定文化財候補
	8月24日	睦沢町	⑪諏訪神社の大クス	23	1200 (根元回り)	諏訪神社	境内	指定文化財
6	8月16日	市原市	⑫シイノキ	18	480	本泉寺	境内	指定文化財
	8月29日	市原市	⑬イチョウ	21	357?	財務省	境内	保護樹木
	9月4日	勝浦市	⑭シイノキ	24	730	寂光寺	境内	指定文化財 (県天然記念物)



(写真1. いすみ市日月神社のホルトノキ 診断状況)

平成 24 年 NPO 法人樹の生命を守る会 秋季研修旅行報告

企画事業委員会 佐々木潔洲（松戸市在住）

恒例となっている秋の研修旅行は2012年、11月4日（日）、5日（月）の両日、埼玉県の長瀬・秩父周辺で実施された。

今回の研修旅行では、日本樹木医会埼玉県支部に現地での案内をお願いした。まず、千葉駅から貸切バスに乗って長瀬駅に向かい、日本樹木医会埼玉県支部深沢支部長と原口事務局長、埼玉県在住の野村樹木医と相川樹木医と合流した。合流後、最初の見学地である宝登山神社に向かった。神社で参拝したのち、樹齢推定150年といわれるタラヨウの古木（写真2）と神社周辺を見学した。

午後からは重要文化財指定の旧新井家住宅を見学した。この建築物は屋根に特徴があり、屋根は、栗の板を薄く割ったもので葺かれていて、その上に石が置かれているものである（写真3）。建物から発見された三峰神社のお札から1700年代半ばにはもう建造されていたらしい。

見学はさらに続き、長瀬の岩畳を見学したあと、埼玉県立自然の博物館に向かった。長瀬は地質学的に貴重な場所であり、日本ジオパークにも指定されている。博物館前から荒川に降りて、虎岩という変成岩の縞模様がよく見える岩も観察した（写真4）。

秩父地方はカエデの種類が多い特徴があり、博物館前にはカエデの見本園として最近整備されたカエデ園がある（写真5）。今年の夏の高温と水不足が影響しているのか先枯れしているものや、萌芽している枝の葉の形が大きく変化しているものが観察され、カエデの葉の形態が変化しやすいものだというのがよくわかった。

2日目は東京大学農学生命科学研究科秩父演習林を、本会会員で演習林職員の相川樹木医の

案内で見学した。樹木園と、ワサビ沢展示施設とモノレールを見学した（写真6）。

午後には再び長瀬方面に戻り、野村樹木医の案内で総持寺の多行松を見学した（写真7）。この多行松は、これまで見たことがないほどの大きさで、見事なものであった。

帰りは夕方の渋滞に巻き込まれることが懸念されたが、遅れは最小限にとどめられ18時過ぎに千葉駅に着き、今年の研修旅行を無事に終了することができた。2日間天候にも恵まれ有意義な研修旅行になったと思う。

最後に、研修旅行でお世話になった、日本樹木医会埼玉県支部の皆様がこの場を借りて感謝申し上げる。



（写真1．ワサビ沢展示施設前で参加者集合写真）
雁坂トンネル近くの施設で背景は演習林の紅葉



(写真2. 樹齢150年(推定)タラヨウの古木)
葉の裏に傷をつけると変色する。葉書の木。



(写真5. 自然の博物館カエデ園)
秩父地方には20種ほどのカエデが生育している。



(写真3. 重要文化財旧新井家住宅の屋根)
住居に養蚕の設備がある。栗の板の屋根は秩父では一般的なものだ。



(写真6. 秩父演習林樹木園)
山腹の斜面を利用した樹木園。園路を散策して観察できる。



(写真4. 長瀬岩畳)
近くでは縞模様のはっきりと確認できる。



(写真7. 総持寺の多行松)
あまりにも大きく見事だったが基本的データの記録はしていなかった。

海外研修旅行 実施報告

1. 研修旅行の概要

NPO法人樹の生命を守る会では平成24年6月16日から20日までの5日間、ベトナム～カンボジアにかけて研修旅行を実施しました。今回の研修も海外の事情や樹木に詳しい有田理事長を団長に11名が参加しました。

幸か不幸か台風のため、帰路は思いがけなくハノイ泊が追加されましたがとても有意義な旅となりました。



(写真1. タ・プローム遺跡に絡まる巨大な樹木(SPUNG)の根の前で集合写真)

2. 研修旅行の目的

実際に現地へ行き、自分の目で見て体験し考え見聞を広めることです。

3. 旅の行程

6月16日 成田～ベトナム・ホーチミンシティー動植物園見学

6月17日 ベトナム～カンボジアへ

6月18日 カンボジア 遺跡の見学

6月19日 カンボジア～帰国予定が急遽台風の為ハノイへ

6月20日 ハノイから帰国

4. 研修旅行の日記

・6月16日 成田～ベトナム・ホーチミンシティーへ

樹木医 石橋 亨 (山武市在住)

日本との時差は2時間、現地の気温は31℃高温多湿の雨季で空気はべとついています。

現地通貨はドン (1円=250ドン) で日本との物価は4分の1～5分の1といった印象です。交通手段はバイクと車で、信号の無い交差点も多く、徒歩で道を横断するには、バイクと車がクラクションを鳴らして走る中をすり抜けて渡るしかないが、体験してみるとみんな絶妙な間隔を保っていて事故は意外と少なく感じました。その他、物売りも多く「1000円！」を連呼して売りに来ます、今回はバスをバイクで追いかけて売りに来た母子がいましたが、何度断られてもめげずに屈託の無い笑顔で売りに来る姿に負けそうになりました。



(写真2. ベトナムの街の様子)

・6月17日 ベトナム～カンボジアへ

前日に引き続き公園などで、植物を見て回りました。羊蹄木・オオバサルスベリ・フタバガキなどを見つけては観察し、バスでベトナム戦争終結の地である統一会堂へ移動して戦争の歴史と当時の様子に思いをはせました。その後ベンダイ市場に立ち寄りホーチミン空港へ。しかしここでトラブル発生、15:55 発の搭乗手続きがまったく進まず、機械トラブルとの説明を

受けました。その後その便はキャンセルとなり17:00 発の便に変更となり仕方なく待つと、またも飛行機が来ず。納得のいく説明もないまま結局この便もキャンセルとなり19:45 発の便でカンボジア・シュムリアップへ。後日解った原因は搭乗人数が少なかったからでした。文化の違いを痛感する貴重な体験となりました。

・6月18日 カンボジア・シュムリアップ

カンボジアはベトナムよりも更に貧困に感じました。カンボジアで出会った最初の少年は物売りではなく物乞いでした。私は彼の自立の為に無闇に物を与えてはいけないと思いました。しかし日本の戦後もこんな時があつて米軍に飴玉をもらって助かった事も有るといふ話に、深く考えさせられました。



(写真4. フタバガキの傷跡・火をつけるとロウが出るので街灯の代わりにした)

現地の平均月収は日本円で4000円位で、ガソリン代は日本と同じ位だから大変との事。移動のバスのシートが破れていたが現地の生活を思えば、バスが有るだけありがたい。そんな事を思いながらでこぼこ舗装の道を走り移動し(タ・プローム)(タ・ケウ)(アンコールワット)等の遺跡を見学しました。植物のトピックとしては遺跡に絡まるガジュマルの仲間(SPUNG)の巨大な根系や夜の街灯として利用されたフタバガキの仲間がありました。

・6月19日 カンボジア～帰国の予定が急遽ハノイへ

カンボジア2日目は、アンコール・トム遺跡の見学です。



ここでの植物トピックは猛毒の木の実、上の写真です。写真左が果実、右が中の種子でこの種子4~5個で人は死亡するらしく1個食べただけでも大変な事になるらしいですがマラリアの薬にもなるといいます。しかしそれにはこの毒の実を食べ、もちろん少しずつですがその毒を受け入れ苦しんで毒に打ち勝ち、その後更に量を増やしていき一個の実を飲み込めるようになると蚊に刺されなくなるそうです。怖くて試せませんが、毒も受け入れると薬になるという話はなるほどと感心してしまいました。

・6月20日 ハノイから帰国

・旅を終えて

今回の海外研修旅行を通して、改めて文化の違いを感じましたが、それを受け入れて、楽しんでいくことが大切だなと感じ、さらに人を助けるという意味についても改めて深く考えさせられる貴重な旅となりました。今回の旅の経験を今後の人生に活かして人として、そして樹木医として成長していきたいと感じました。

最後に、今回の旅の企画から始まり多岐にわたり御尽力頂いた有田理事長、そして共に旅をした皆様お疲れ様でした。そして、ありがとうございました。

一般社団法人日本樹木医会 千葉県支部について

千葉県支部理事兼中央ブロック長 鈴木弘行

1. 支部の概要

平成6年5月に5名の会員により発足した千葉県支部は現在、会員数111名（平成24年度末）を擁する組織へと発展した。会員数の増加に伴い、会員相互のつながりの希薄化や研修等への参加意識の低下が懸念された。これらの課題を解決する策として、平成21年より、県内を4つのブロックに分けるブロック制を取り入れた。

ブロック制の発足により、各ブロックが独自の研修プログラムを組み運営することとなった。支部事務局を通して、各ブロックの研修情報が提供されるので、他ブロックの研修会に参加でき、多彩な研修プログラムを学び経験できるようになった。

また、ブロック制により、会員同士の顔がより近く見え、研修後の懇親会も人間関係を深める絶好の機会になっているようである。

ブロック制も5年目を迎えることとなり、各ブロックが切磋琢磨することにより、千葉県における樹木医の社会的信頼性がより高まることが期待される。

2. 平成24年度支部活動

平成24年度の総会は4月21日（土）に開催、北島博氏（森林総合研究所）による「穿孔性昆虫の生活、被害、防除」と題した基調講演の後、石谷栄次会員、松原功会員により日頃の活動事例の報告が行われた。

新会員歓迎会は平成25年2月9日（土）に開催された。基調講演は後藤忠男氏（森林総合研究所）により「海外の林業と害虫」と題して

行われた。その後、有田和實会員、梅本清作会員による日頃の活動事例の報告が行われた。両会とも懇親会は、講師との名刺交換、会員同士の仕事上の情報交換、手持ちの課題解決のための相談など、盛んであった。

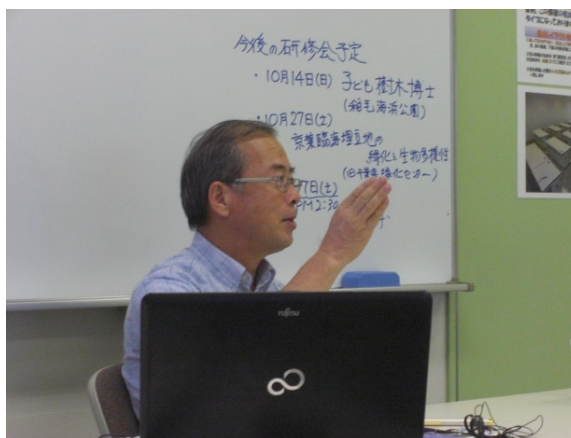


(写真1. 新会員歓迎会における基調講演風景)

3. 各ブロック活動

平成24年度も各ブロックがそれぞれ独自の研修会を開催した

中央ブロックは座学を中心とした講座と他団体が実施するプログラムも活用し、研修を行った。



(写真2. 中央ブロック研修)

また、研修会の内容をまとめて「中央ブロックホットニュース」を発行し、研修会に参加できなかった会員への情報の発信を行った。

西ブロックはフィールドワークを中心として、継続して実施している松戸市のさくら通りの樹木台帳作成や保存樹木（クスノキ）の健康診断を行った。



(写真3. 西ブロック研修：樹木診断風景)

東ブロックでは、座学と現場研修を実施した。イヌマキを枯らす大きな原因になっているケブカトラカミキリの防除についての試験を行うなど継続的な試験を研修として実施している。

南ブロックは樹木診断や樹木管理、樹木の生理障害などについての研修会を行った。

以上のように各ブロックの個性が発揮された研修会が活発に行われた。

4. NPO 法人樹の命を守る会との協働

県内の樹木医活動において支部と両輪の役割を果たす「NPO 法人樹の命を守る会」と協働で行う事業も多い。

平成 24 年度に実施した「巨樹・古木フォーラム in かつり」の開催や、君津市と千葉市で開催した「子ども樹木博士」は、NPO 法人樹の命を守る会との協働事業の代表的な事例である。

近年始まった、稲毛海浜公園の樹木ボランテ

アの指導も新たな取り組みとして注目される事業である。行政との信頼関係を築くこととなっている。



(写真4. 稲毛海浜公園：子ども樹木博士)

5. 発展する支部活動

先に述べたが、千葉県支部では全国に先駆けてブロック制を取り入れて、日頃の樹木医活動の活性化を図ってきた。平成 22 年からは「年報」を発刊し、会員の活動を記録する土台も整った。また、平成 24 年 8 月には「年報」に会員が「技術レポート」を掲載できることとした。

これからも会員の不断の研鑽とともに、支部活動がより発展することが期待される。

6. 新会員の名前と所属紹介

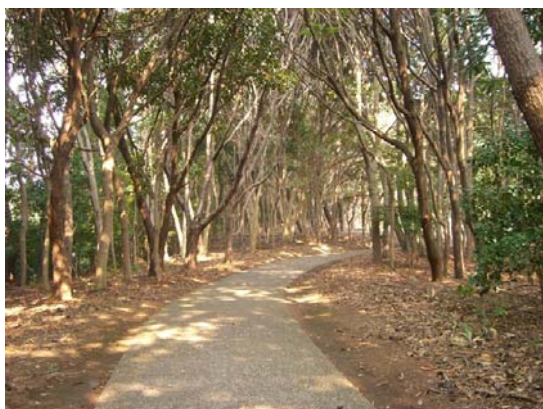
中央ブロック：福本和弘（千葉市）

西ブロック：勝村実（流山市）、金子真吾（市川市）、千濱忠（我孫子市）、藤原淳（市川市）、柳澤ユーサ（市川市）

以上 6 名（敬称略）

稲毛海浜公園樹林ボランティア指導について

樹木医 石橋 亨（山武市在住）



（写真1．林内整備後、明るくなった園路）

1. はじめに

本活動は日本樹木医会千葉県支部とNPO法人樹の生命を守る会とが協力して稲毛海浜公園のボランティア指導を行っています。当初平成23年3月16日から活動を予定していましたが、同年3月11日の東日本大震災により延期となり初開催は同じく同年の6月29日となりましたが、以後毎月活動を続けています。

2. 主な活動内容

1) 樹林内の整備作業。

当初、園内樹林地は鳥散布などにより多くの実生苗が繁茂して鬱蒼としていました、そこでまずはボランティアの皆さんに実生木の整理作業をお願いいたしました。作業に当たり、道具の安全な使用方法を樹木医のメンバーで実演し説明した後、ボランティアの皆さんに実際に作業を行って頂きました。この公園整備ボランティアに参加下さるメンバーの皆様方の熱意たるや驚くものがあり皆さん一心不乱に整備作業を進めてまいります。人も一人ではその働きたるやたかが知れていますが、



（写真2．有田理事長による桜苗植樹指導）

多くの人が集まりますとそれは大きな力となります。作業時間は毎回2時間位ですが、それこそまたたく間に整備作業が進んでいきます。皆さん集中していますので時間の経過もあっという間です。作業の後は心地よい疲労とともに帰路となります。

2) 園内の植物の観察

園内植物観察では樹木医メンバーが樹種の特徴や利用上の特性について説明を行います。千葉県の樹木医には大変博識な方も多くいらっしゃいますので一般の参加者はもちろん、私の様な樹木医にも大変勉強になる場でもあります。

3) その他の活動。

展望台周辺のお花見広場の整備や伐採木の有効利用としてのシイタケ栽培・本活動とは別になりますが24年度から同公園でも開催されるようになった子供樹木博士のきっかけになるなど多岐にわたる活動をしています。

3. おわりに

稲毛海浜公園ボランティア指導業務も早くも2年が経過し3年目に入ります。今後ますます活発な活動を御祈念いたします。

● 割接ぎ

前号まで切接・芽接ぎでしたが、今回は割接です。この方法は、遺伝子保存ではマツ（クロマツ・アカマツ・ゴヨウマツ）での応用がよい。マツの盆栽仕立では舌接ぎが主な方法ですが、遺伝子保存の為だけでは必要ないでしょう。

園芸ではツバキ・モミジ、また果樹関係で多少行われている。

① 割接ぎとは

前号まで切接について述べましたが、基本的には切接と同じです。ただ台木の中央で割り、穂木は楔型に切り、互いの形成層を合わせ接ぐことです。

以後、各論的ですが、マツについて述べます。

② 台木について

一般のクロマツ・アカマツ・ゴヨウマツではクロマツの実生の2~3年生（移植、根切りもの）を使う。

③ 穂木

前年枝の天芽の健全なもの。

④ 接木の手順

台木の穂木の処理等について模擬的ですが写真で説明します。

* 台木の切り方

図1の台木を天芽の間際、松葉を一行程度残して他の葉を除く。芽を水平に切り除き、図2のように中央4~5ミリ程度に少し切れ目を入れ、指で穂木と合うように切り裂く。ナイフで最後まで切り下げると台木の形成層を傷つけるおそれがある。

* 穂木の切り方

図3のように天芽下一列程度、葉を残したものを楔状にナイフで切る。この際、枝が柔らかく撓み、切りづらいため、葉を傷つけないように台等に載せると切りやすい（大根を台として利用するとよいと言われている）

* 台木と穂木を合わせる



図4のように互いの形成層を合わせる。この際、穂木の切口面が少し外に出るようにする。

切口面が全部台木の中に隠れると接木部の癒着が悪くなる。

最後に図5のように互いの葉を束ねて紐で結束する。以上で接木作業は完了です。

その後は、苗床に植付ける。遮光の必要

は当然ですが、密閉状態（挿木の密閉挿しと同じ）にすると活着率は上昇する。

しかし挿木と同様ですが3~4週間後からの外気との馴化作業が大切なことになる。

シリーズ 上海便り（その1）上海ディズニー

樹木医 伊東伴尾（千葉市&上海市在住）

1. 上海技術支援活動までの経緯

1) 定年後の生き方模索

60歳を過ぎた頃から、定年後の過ごし方を考えていた。その頃、幾つかのNPOに所属していたので、先に定年を迎えた方の過ごし方を見聞することが出来、大変参考になった。定年後もNPOに参加されている方は、無理なく有意義に活動に参加し、生き生きとし過ごされている方が多い。筆者も定年後このような生き方をしたいと思うようになった。

2) 海外活動のきっかけ

また、この頃勤務先の造園会社でロンドンのチェルシーフラワーショウ出展や中国グリーンビジネス調査に参加し、退職年にはトルコ日本庭園造成での「日本造園学会賞」を授与される等、海外に関わることが多かった。これらのことから、定年後は先輩諸氏に習い、樹木医活動やNPO活動を行なうことに加え、40年培った造園技術で海外での造園技術支援活動ができれば良いと思うようになった。



(写真1 上海のアパート)

3) 上海での活動開始

このような中、定年を迎える年に、中国調査でお世話になった、現在の勤務企業の董事長(元

石油企業の北京所長)より誘われ上海での造園技術コンサルタントとして活動する機会をいただいた。平成23年9月末より、会社から提供された上海の古北地区の高層マンション(写真1)に住みながら、活動を始めた。

4) 企業特質

このコンサル企業は、造園設計も行なうが、現在中国で造園での課題となっている、材料、施工管理、緑地管理等の業務を、日本造園の木目細かいものづくりで行なうことを重要視している。また、この業務に参加を希望する日本の造園に関わるパートナー企業と中国の顧客と間のプラットフォームの役割も担う。

4) 営業支援活動

最初は営業支援活動で始まった。董事長の人脈を活かし、上海ディズニーランド、山東省煙台のリゾート、上海新天地の高級マンションの屋上ガーデン、日系自動車企業のR&Dセンター等プロジェクトの営業活動を行なってきた。そして、平成24年4月より、上海ディズニー事業企業の関連子会社の上海申迪園林投資建設有限公司と技術顧問契約を締結し、技術顧問活動を行なっている。今回の上海便りは、主要なコンサル業務である、本件の内容を紹介する。

2. 上海ディズニープロジェクト

1) プロジェクト概要

発注者：上海申迪園林投資建設有限公司

場 所：上海市新浦東地区

開発面積：上海リゾート区2000ha

第1期390ヘクタール

(内) 上海ディズニー160ha

第2期310ha アウトレット等

上海ディズニーランドは、上海市の中心から南東に 20 km程の場所に建設中である。ここは上海市が上海リゾート区として、面積 2,000ha からなる新たな区を開発している。その第一期工事の中心施設が上海ディズニーランドである。ランドスケープの設計は 2012 年 8 月に発注されていて、2013 年春にランドスケープ工事の発注が見込まれている。上海申迪園林は開発地区内に圃場をつくり、ディズニーで使用を予定されている樹木をコンテナで養生している。筆者の勤務企業である高原建築諮詢(上海)は、昨年 4 月より上海申迪園林と技術顧問契約を締結し、現在この樹木育成の指導を行っている。

2) 定期会議

毎月定期的に現地事務所(写真 2)で技術会議を開催している。内容は樹木を育成する中で、生じ問題や今後のプロジェクト全体に関するものまで、幅広く話し合われる。米国 WDI との合同会議も行なわれることもあり、国際的なランドスケープの交流が行われている。



(写真 2. 現場事務所での会議)

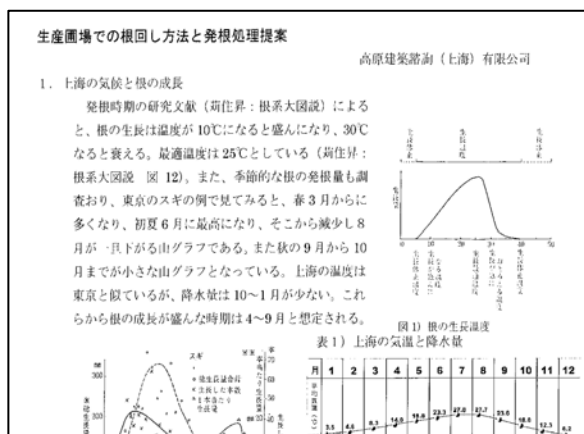
育成圃場は現地事務所の近くにあり、現場の状況把握も実物での現地指導(写真 3)もやりやすい。現地作業員も含めての作業指導や、実験圃場での試験植栽も行っている。



(写真 3. 圃場での技術指導)

3) 技術レポート

現地会議や現地指導で発生した課題について、日本のパートナーの協力や文献等から、対応策を技術レポート(図 1)として申迪園林に提出している。これまでの課題としては、樹形と樹勢の評価、移植方法、剪定方法、根回し方法、灌水方法、土壌調査機器、環境調査機器、病害虫対策、施肥と樹勢回復方法等とコンテナでの育成方法全般にわたり指導してきた。



(図 1. 技術レポート例: 移植方法 (部分))

指導の中で、樹木医的知見を活かした樹勢不良対策も行ない、現場での改善に繋がり、高い評価をいただいている。現在はコンテナ圃場での管理マニュアルを作成中である。次回は最近の上海事情等をお伝えしたい。

1. イチョウの大冒険 (世界でいちばん古い木)

アラン・セール 富山房インターナショナル 1800円 2012刊

二畳紀に祖先が出現したといわれるイチョウの物語である。鳥も哺乳類も恐竜もない時代から現在まで、その軌跡は劇的で、大陸移動、隕石衝突、恐竜絶滅から中国南部天目山までの盛衰、そして人によって見いだされ、日本渡来、世界への拡散等、イチョウの大冒険に引き込まれる。原爆被災に耐え、今やニューヨークの摩天楼の50階にも生育している。絵も記述も楽しく、子供たちの興味の涵養に最適である。但し内容にはいくつか検証が必要である。

2. がんばらないガーデニング 井上忠佳

誠文堂新光社 1300円 2012年刊

「怠けること」は上質な人間の本性であり、日本にもレイジーガーデナー(怠け者の庭師)というハイレベルな人間が沢山いても良いと著者はいう。時間の節約とお金をかけない方法が、疑問点や理由等を含めて絵入りで解りやすく楽しさいっぱい、説明されている。段取りや心構えが優しい標語のようで、庭造りの夢、想いが無限に広がる。同好者と力を合わせて花や緑の回廊を作り、まさに鳥や蝶も呼びたい。

3. 遺しておきたい千葉の水辺その4

千葉河川交流会 松尾弘道 2012刊

4号では外房地域の紹介が多くなされている。九十九里浜北端で海岸浸食に抗い、子供たちも築いた防波堤、日本最初の天然記念物に指定された太東海浜植物群落地、元禄津波を教訓とした避難丘、九十九里平野に遺された戦争遺産、掩体壕、等、先人たちが築いた房総の地の様々な歴史を垣間見ることができ、写真や図面を通

樹木医 富塚武邦(東金市在住)

して、人々の営みが鮮やかに蘇ってくる。調査関係者の熱意に感謝するとともに次号が待たれる。

4. “森たび” 東京大学演習林の見どころ

100 東京大学演習林出版局

1000円 2012年刊

全国7か所の演習林は、総面積3万2千haに及び、一般公開日や社会活動を通して門戸を開いている。そこには森が魅せてくれる様々な自然景観、名所、旧跡、施設などを訪ね歩く新しい旅の提案があり、演習林という森が持つ生態的、文化的、学問的価値が100の見どころによって広く認識される。千葉演習林は天然林、人工林、歴史的な施設、川回し等もあり、公開の機会に歩いてみたい。生態系の豊かさの証左であろうが、ヤマビル対策も十分にしている。

5. 草地と日本人 須賀丈、岡本透、丑丸

敦史 築地書館(株) 2000円 2012年刊

百年前には国土の13%が草地であった。1万年前の縄文早期からの人間活動によるものとされ、継続的な野火、放牧、刈取り等により形成されたが、その土地や地域は生成に数千年を要する黒色土の分布域と符合する。しかし現在では1%に過ぎず、大陸の草甸(そうでん)との地理的繋がりを示し、草地独自の生態系を彩った多くの動植物がいま絶滅の危機に瀕している。著者は「時間の猶予がない中で、至急ローカル生物多様性ホットスポットを調査認定し、その順位の高いところを保全する方策で、国民の財産である最後の砦を守り、22世紀に伝える努力が今こそ必要である」と述べ、緊急を要する保全の重要性に同感する。全編を通しての丁寧な記述は心地よい。

NPO法人樹の生命を守る会総会報告

副理事長 総務委員長 松原 功（山武市在住）

平成 24 年度NPO法人樹の生命を守る会総会は、平成 24 年 5 月 19 日（土）13 時から、プラザ菜の花（千葉市中央区）で開催され、盛会裏に終了した。ここに、その概要を報告する。

— 総 会 —

1. 開会

2. 理事長あいさつ 有田理事長

3. 議事 議長：富塚理事

(1) 第 1 号議案 平成 23 年度の事業概要 (報告者：有田理事長)

① 普及事業 5 件

巨樹古木フォーラム in あびこ、子ども樹木博士 など

② 広報事業 4 件

会報の編集・発行 など

③ 研修事業 5 件

秋期研修旅行（神奈川県）など

④ 受託事業 14 件

清澄寺大スギ樹勢調査業務など

⑤ 会議の開催状況 3 件

平成 23 年度通常総会、理事会 各委員会など

異議なく承認された。

(2) 第 2 号議案 平成 23 年度決算報告（報告者：神尾事務局長）

中村監事から会計は適正に執行されている旨の監査報告があり、異議なく承認された。

(3) 第 3 号議案 平成 24 年度事業計画（案） (提案者：有田理事長)

① 普及事業 5 件

巨樹・古木フォーラムの開催、子ども樹木博士の実施など

② 研修事業 4 件

技術研修会開催 など

③ 広報事業 3 件

会報「樹の生命」10 号の発行など

④ 受託事業 4 件

樹木診断・樹勢回復業務 など

⑤ 他団体活動に協力

日本樹木医会、千葉県さくらの会など

異議なく承認された。

(4) 第 4 号議案 平成 24 年度予算（案） (提案者：神尾事務局長)

異議なく承認された。

(5) 第 5 号議案 役員改選

平成 24 年度、25 年度役員案が事務局の原案通り承認され、有田和實氏が引き続き理事長を務めることになった。

4. 閉会

— 研修会 —

総会終了後、引き続き次の研修行われた。

1. 堀 大才 顧問

「樹木の水分吸収機能と森林の保水力」

2. 有田理事長

「ドクターウッズ等を利用した危険木の判定事例」



(写真 1. 堀顧問の講義)

委員会だより

■総務委員会報告

総務委員長 松原 功

総務委員会は、会の運営をスムーズに行うために広く皆さんの意見をお聞きし、会の運営に役立てて行く役割がある。今年度は以下の事業を実施した。

1. 理事会（役員会）報告の配信

毎月1回、第3金曜日の19時から開催される定例理事会（役員会）の議事内容を要約して、メール・FAX・郵送で各会員に配信している。

2. 総会の開催

平成24年5月19日（土）、プラザ菜の花で開催された平成24年度通常総会の開催に係る事務を担当した。

3. NPO 創立10周年記念無料簡易診断事業（第2期）

NPO 創立10周年記念無料簡易診断事業（第2期）の実施にあたり、実施委員会の事務局を担当した。今回の事業対象地域は、千葉市、市原市、香取郡市、海浜郡市、山武郡市、長生郡市、夷隅郡市の26市町村で、平成24年6月から10月まで、会員12名の協力を得て、実施した。〔詳細は無料簡易診断事業（第2期）実施概要参照。〕

4. NPO 創立10周年記念無料簡易診断事業（第1期）報告書の印刷及び配布

技術委員会（柏崎委員長）の協力を得て、NPO 創立10周年記念無料簡易診断事業（第1期）報告書を印刷、会員に配布した。

5. 会員名簿の作成及び配布

事務局の協力を得て、NPO法人樹の生命を守る会会員名簿（平成24年度版）を作成し、会員に配布した。

6. 総務委員会の開催

総務委員会を6回開催した。

■企画・事業委員会報告

企画・事業委員長 山崎雅則

1. 委員会委員：佐々木潔州(副委員長)、木暮亘男、関 隆夫、武田英司
2. 平成24年度の事業実績
 - ・イベント：「子ども樹木博士」
久留里 平成24年8月5日
海浜稲毛公園 平成24年10月14日
 - ・研修旅行：「秋季研修旅行 秩父・東大演習林」平成24年11月4～5日
 - ・イベント：「巨樹・古木フォーラム in かつとり」平成25年2月24日



(図1. 子ども樹木博士下見風景・稲毛)

子ども樹木博士の久留里と海浜稲毛公園は今後継続事業として毎年実施する予定。

研修旅行は関東地域を一巡し終えたので次期は長野県を検討中。

巨樹・古木フォーラムは浦安市を次期候補地として活動を開始している。



(図2. 研修旅行一場面・長瀬)

3. 委員会開催：企画・事業委員会 …2回
フォーラム検討委員会 …3回
フォーラム実行委員会 …7回
- 皆様ご協力有難うございました。以上。

■技術委員会報告

技術委員長 柏崎智和

技術委員会の今年度の活動は、平成 24 年 7 月 29 日に県立青葉の森公園において第一回技術研修会を総務委員会との共催で、簡易診断研修会を実施。第二回技術研修会は平成 25 年 2 月 10 日に印西市立木下小学校のフジの診断研修会を開催しました。また、同年 2 月 24 日に開催された『巨樹古木フォーラム in かとり』においても、パネルやレジストグラフの展示等を行いました。

今年度の反省点として、研修会の開催が少なく、会員の皆様にはご迷惑をおかけしたことをお詫び申し上げます。

来年度は、これまでと同様、診断や治療などの研修の他、NPO10 周年事業の簡易無料診断をおこなった樹木の見学会も計画し、研修会の開催ももう少し増やしたいと考えております。

研修会対象木の関係者の方には、お手数をおかけすることになると思いますが、ご協力のほどよろしくお願い申し上げます。

また、技術委員会は、会員の技術向上や平準化を図るため、技術研修会や技術情報の提供などをおこなう責務があるため、技術情報の蓄積なども行っていきたいと考えておりますので、会員の皆様からの研修可能な受託業務や治療法や資材等の情報等ございましたら、技術委員会への情報提供をお願いいたします。



(写真 第二回技術研修会 (於：印西市立木下小学校))

■広報委員会報告

広報委員長 本田一彦

広報委員会では、主にホームページを通じた会員他の皆様への事業活動のお知らせと、会報誌の作成による NPO 活動の広報を活動内容としています。

本年度も多くの樹木医の皆様より事業活動、寄稿、連載記事等をお寄せいただき、第 11 号の会報を発行することができました。

今号より、当会の活動を多くの方々に理解していただくために、事業活動の紹介を中心とした構成としています。また、装いも新たに前頁フルカラーの会報誌として生まれ変わりました。これを機会に、より多くの方々に私たち NPO の活動を知って頂ければ幸いです。

会員の皆様からは、今後とも多くの寄稿をお待ちしております。

平成 24 年度は、NPO 樹の生命を守る会のホームページに会報「樹の生命」No.10 の web 版を掲載しました。また、会員向けの活動案内を随時更新し、NPO 活動の広報に努めてきました。課題となっているギャラリー、技(わざ)のコーナーについては、会員の皆様より多くの情報提供を頂きながら、充実を図ってまいりますのでご協力をよろしくお願いいたします。

■事務局報告

事務局長 大場 みちる

事務局では、NPO 法人 樹の生命を守る会の運営に伴う事務業務などを担当している。今年度は以下のような業務を行いました。

1 千葉県への事業報告

平成 23 年度の事業報告および、役員変更の報告を行いました。

2 納税

消費税および、千葉県への法人県民税の納税

を行いました。

3 登記の変更

今年度は、理事2名の交代があったため、役員の変更手続きを行いました。

4 役員会（理事会）の開催に関わる業務

毎月一回、第三金曜日の夕方から千葉市コミュニティーセンター会議室にて役員会を開催。理事10名・監査2名による、会

の運営や報告等の話し合いを行った。毎回、10名前後の役員が集まり、全12回の開催となりました。

5 会計・その他

会の運営費の管理・会計業務を行いました。また、会の事業・運営のための書類の作成に関わる業務やその他諸事務を行いました。

会員名簿 NPO法人 樹の生命を守る会 会員名簿

1. 役員および各種委員長

役員	各種委員長
<ul style="list-style-type: none"> ・顧問 堀 大才 ・理事長 有田和實 ・副理事長 松原 功 ・事務局長 大場みちる ・監事 中村元英 	<ul style="list-style-type: none"> ・監事 真嶋好博 ・総務委員会 松原 功 ・企画・事業委員会 山崎雅則 ・技術委員会 柏崎智和 ・広報委員会 本田一彦

2. 会員名簿（平成25年4月1日現在 正会員58名）

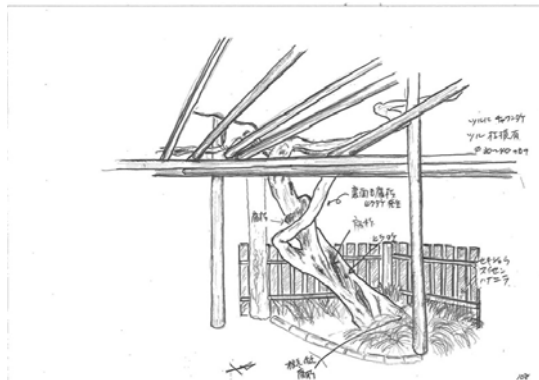
地区名	会員名	地区名	会員名	地区名	会員名
■ 県西地区 ・市川市 ・船橋市 ・松戸市 ・野田市 ・我孫子市 ・印西市 ・柏市	神尾健二 高橋芳明 田口峯男 直木 哲 中井義昭 角能浩章 鈴木弘行 目黒仁一 鏑木大作 佐々木潔州 真嶋好博 高橋 毅 本田一彦 田中 彰 阪本 功 高野光利 荒木 睦 柏崎智和 永野 修 渡辺照雄 山田雄介	■ 県中地区 ・千葉市 ・習志野市 ・八千代市 ・浦安市 ・いすみ市 ・大多喜町 ・佐倉市	伊東伴尾 小田良彦 小野寺康夫 君塚幸申 木暮亘男 塚原道夫 服部立史 武田英司 福本和弘 中村元英 山崎雅則 小宮山載彦 鳥屋英昭 有田和實 関 隆夫 渡邊昭夫 林正純 大場みちる	■ 県東地区 ・東金市 ・八街市 ・富里市 ・山武市 ・芝山町 ・大網白里町 ・長生村 ・匝瑳市 ----- ■ 県南地区 ・木更津市 ・君津市 ----- ■ 他県 福島県 埼玉県 東京都	富塚武邦 北田征二 櫻本史夫 松原 功 石橋 亨 大木一男 足立照光 海老根熙 大木幹夫 ----- 小倉善夫 大高一郎 小池英憲 藤平量郎 諏訪原幸広 ----- 藤田和孝 相川美絵子 飯野桂子 多田祐樹 竹内克己

■今号のトピックフォト (2)

●技術研修会 本文 P. 26 より



診断対象木遠景



診断対象木 (フジ) スケッチ

NPO 法人 樹の生命を守る会

■「NPO 法人 樹の生命を守る会」の役割

- 私たちは市民・行政と手を結び、厳しい環境にある樹木を自然環境・社会環境・文化保護・樹芸・樹木文化などを生かしながら、育てていきます。
- 「NPO 法人 樹の生命を守る会」が持っている豊富な樹木に関する知識や技術を活用して、みどりの調査・研究・みどりの普及啓発に努めていきます。
- みどり関係の行事やイベントに参加し、多くの方々と理解を深めて、豊かなみどりの干葉を創りたいと考えています。

■「NPO 法人 樹の生命を守る会」の活動

- 私たちは樹木医技術を通して、干葉のみどりを守り、育て、増やしています。
- 日本樹木会千葉県支部、森林インストラクター千葉県支部、(財)日本緑化センターなど多くの関係機関と連携して活動しています。



「NPO 法人樹の生命を守る会」ご活用手引き

樹木のことは、まず私たちに相談してください。

<活用例>

- 山の木、街の木、庭の木などの診断と治療
- 子ども樹木博士講座
- イベントなどでの樹木相談コーナーのお手伝い
- あなたの街の樹木めぐりなどの企画・運営・実施

<連絡先> NPO 法人 樹の生命を守る会 事務局

〒285-0836 佐倉市生谷 1147-4

E-mail : kino24ino25chi@oasis.ocn.ne.jp



・清澄寺大杉 樹木調査 (2012年)



■君津の大コナラ（写真提供：諏訪原幸広）

君津市の内山緑地建設所有の植木畑にある樹高約 10m 葉張り（東西）約 18m 根元周 3.85m のコナラ。幹は 3 本あり、その総和は約 3.27m になる。このコナラは横に大きく広がる樹形が特徴で、反対側の山の斜面からもよく分かる形、大きさである。（No10 号表紙参照）一帯はかつて薪炭林で、これほど大きいコナラの木が残っているのはこの 1 本のみ。

この大コナラまでは散策路が整備されていて、自由に見学することができる。コナラのほか、周囲にはスダジイの大木も境界の目印として数本残っている。

樹の生命

NPO 法人 樹の生命を守る会 会報 2013 年 6 月 1 日

発行人：有田和實

広報委員：本田一彦（委員長）、相川美絵子、櫻本史夫、
伊東伴尾、諏訪原幸広

（発行人、広報委員は 2013 年 4 月 1 日現在）

● 事務局

〒285-0836 佐倉市生谷 1147-4

Email kino24ino25chi@oasis.ocn.ne.jp

● ホームページ <http://homepage3.nifty.com/kinoinochi/>